



Title	接続詞「そして」による添加の種類
Author(s)	中田, 一志
Citation	日本語・日本文化. 2025, 52, p. 1-16
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/100657
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

〈研究論文〉

接続詞「そして」による添加の類型

中田 一志

0 はじめに

本稿は国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（以下、BCCWJ）の「特定目的・教科書」のデータを用い、接続詞「そして」の文連結の用法を整理するものである。必要に応じてそれに関連する接続詞あるいは複合接続詞句の文連結と比較し、「そして」の用法、類型を明らかにする。

なお、本稿では社会の教科書から文例が多く採用されている。その理由は教科書の接続詞の計量的研究である馬場（2017：9）でも指摘されているように、「社会は、書き手の論の運び方を示すいわば叙述的な接続詞（「尤も、要するに、其れでは、然し、並びに、更に、一方、猶」など）が使われやすい」からである。

1 「そして」のこれまでの分類基準と特徴

「そして」は「前文の内容に付け加える内容を後文に述べる型」である「添加型」の一つ、「累加、単純な添加」の接続詞である（市原 1978）。そして、一般的に後文に添加（あるいは累加）される内容が前文と時間的に継起的であるか同時であるかといった時間的な関係を基準として用法が区別される。

例えば、楊・馬場（2004：29-30）では、「継起」の「そして」を「それから」と対比しながら『そして』を用いて結び付けられた文では、その前後件には、まとまり性を持っているので、前後の動作の『連続性』がはっきり現れる。『それから』を用いて結び付けられた文では、前後件の間に独立性がある程度存在するので『区切り性』がはっきり現れる」としている。すなわち時間的な「連続性」があれば継起的な解釈となる。一方、同論文は「同時」を表す用法を「累

加」と呼び、『そして』を含む文は、その前の文に、後ろの文が累加され、連続した内容と感じられる。つまり『連結性』を示す」(p. 31) としている。

石黒（2000）では前後の内容に時間的な継起関係がある場合をさらに分類し、それらに因果関係があるか否かという基準で「因果関係を表す『そして』」というカテゴリーを設け、因果関係を表さないものを「時間を表す『そして』」と区別している。因みに時間的に同時であるものを「並列の『そして』」とし、「そして」は因果関係、時間、並列の三つのカテゴリーにまたがるとしている。

他に、「そして」の特徴として示唆的なのは「ひとまとまり性」である。比毛（1989：54）では「現実の世界の出来事はひとつの行動でありながら」「形式的には分離された文を内容的にふたたびまとめあげて、それをひとまとまりの行動としてさしだすためには、接続詞の『そして』をもちいてむすびつけることが必要になってくる」（傍点は筆者による。）としている¹。

本稿ではこの「ひとまとまり性」に注目しながら、より詳細に接続詞「そして」を類型化することを目的とする。

2 過程と結果によるひとまとまり

ここでは多くの先行研究で指摘される「そして」の「継起性」の用法に対応する BCCWJ の例²を考察する。「ひとまとまり性」を持つことから「そして」の前後の事態には「連続性」があると指摘されている（楊・馬場 2004 等）。

ひとまとまりの連続性をもつと言われる事態の間にはどういう関係があるのだろうか。

- (1) 福岡県は、豊かな歴史とともに産業がさかえてきたことがわかってきました。そして、さらに調べてみることにしました。（社会 / 中 / 2：新しい社会地理）
- (2) 江戸時代のはじめごろ、利根川や江戸川の大規模な河川工事が行われました。工事は、江戸への物資の輸送路としての川を整備することと、洪水を防ぐことが、その目的でした。番付にのっているしょう油の産地を、地図上で探してみました。そして、なぜその場所にあるのか、理由を考えてみました。（社会 / 中 / 2：新しい社会 歴史）

- (3) 千九百九十二年にはECをEU（欧州連合）に発展させる欧州連合条約（マーストリヒト条約）を結び、統一通貨の完全実施や政治協力の実現などについての合意がなされた。**そして**、EUのうち十二か国は単一通貨ユーロを導入した。（社会 / 高：現代社会）

「そして」により（1）では「理解を深め、さらに調査を進める」こと、（2）では「地図の上の位置を確認し、地理学的な考察をする」こと、（3）では「欧州連合条約が締結され、通貨ユーロが導入された」ことが連結されている。事態間には「連続性」があるだけでなく、「過程」と「結果」の関係があることに注目されたい³。単に連続的に事態を並べただけでなく、「結果」とそれに至るまでの「過程」が述べられ、その結果複数の事態にひとまとまり性が生まれると考えられる。

このことは「それから」と比較することで「そして」の「過程」と「結果」の「ひとまとまり性」がより明らかになる。

「それから」には次の例のように基準時点を時間的起点とする用法もあるが、それはここでは考察しない。

- (4) 中学生の女の子から手紙をもらったのは初めてなので、お礼の返事を出した。**それから**毎月欠かさず感想文が届いた。（国語 / 高：国語表現Ⅰ）

考察するのは「継起性」を持つ「それから」であり、次のようなものである。

- (5) 熊は棒のような両手を上げてまっすぐに走ってきた。さすがの小十郎もちょっと顔色を変えた。ぴしゃというように鉄砲の音が小十郎に聞こえた。ところが熊は少しも倒れないで、嵐のように黒くゆらいでやってきたようだった。犬がその足もとにかみついた。と思うと小十郎はがぁんと頭が鳴って、まわりが一面真っ青になった。**それから**遠くでこういう言葉を聞いた。「おお小十郎おまえを殺すつもりはなかった。」もうおれは死んだと小十郎は思った。（国語 / 高：国語総合）

- (6) その母に、賢治は、「お母さん、すまないけど、水を一ぱいください。」と言った。**そして**、母が差し出した水を、おいしそうに飲んだ。**それから**、オキシドールを消毒綿に付けて、手をふき、首をふき、体全体をきれいにふいた。（国語 / 小 / 6：国語 六下 希望）

確かに楊・馬場（2004：30）の指摘の通り「それから」の「前後件の間に独立性がある程度存在するので『区切り性』がはっきり現れ」ていると感じられる。「区切り性」を言い換えると「過程」と「結果」の関係になっていないということである。「過程」とはその「結果」に繋がるための道筋であり、「結果」とは「過程」の先にあるべきものである。(5)では「銃声が聞こえるが熊は倒れない、犬が熊に噛み付く、小十郎の意識がなくなる」といった一連の事態の先にあるべきものが「当該の声を聞いた」というわけではなく、たまたまそうなったということである。同様に(6)では「水を飲んだ」結果、たまたま「体を拭いた」のである。それに対して(6)の「そして」は「賢治が水をくれと言った」という「過程」と「母が水を差し出しそれを飲んだ」というその先にあるべき「結果」を連結している。

以上、ここでは「そして」が「過程」と「結果」をひとまとまりとしてまとめる機能を確認した。

3 方策と目的によるひとまとまり

ここでは先行研究で指摘される「そして」のもう一つの用法「同時性」に対応する例を考察する。「そして」の前後の事態が同時である場合には本節から5節までで考察する三つの類型が観察される。

次の「そして」は「それによって」に言い換えられる。

- (7) そこで、中学校では、自分で関心のあるテーマに視点を当てて、実際にその場に行って、見たり、聞いたり、記録したりする調査をしましょう。**そして**、調査の結果をわかりやすくまとめて、いろいろな方法で発表してみましょう。(社会/中/2：新しい社会 地理)
- (8) 高齢者は、現在の社会をつくり、さまざまな苦難を生きぬいてきた人たちです。地域の高齢者福祉施設を訪問し、高齢者と話をしたり、いっしょに歌を歌ったり、似顔絵をかいたりして、交流を深めましょう。**そして**、高齢者の気持ちを理解するきっかけにして、どのように接していけばよいかを考えてみましょう。(社会/中/3：新しい社会 公民)
- (9) 2本の紙テープを直角にまじわるようにはり合わせ、まじわったところを東

京の上におく。**そして**、1本のテープを北極と南極を通るようにおくと、これが東京からみた北と南を、もう一方のテープが東と西を示す。(社会/高: 高等学校 新地理A 最新版)

「そして」の前後は、順に(7)では「発表するために調査する」、(8)では「高齢者と接する方法を考えるために交流を深める」、(9)では「東京の東西南北の方角を見るために紙テープを直角に貼り合わせ接点を東京に置く」といった関係、すなわち「方策」と「目的」の関係がひとまとまりになっている。したがって「そして」を複合的な接続詞句「それによって」に言い換えても文意が通る。

しかし、この「そして」は「それによって」とは次の点で異なる。

次の例の「それによって」を「そして」に言い換えたものは落ち着きが悪い。「それによって」の前の事態が言い切りの形になっていないことがその主な原因であるが、言い切りの形にしたとしてもなお不自然である。

(10) さらに、かむことは脳の働きと結び付いているので、よくかむことで脳の働きが活発になります。朝ごはんをよくかんで食べると、**それによって**脳の働きが活発になり、ねむ気がさめて心が安定し、学習能力も高まるということが分かっています。(国語/小/4: 国語 四上 かがやき)

(11) 第3次吉田内閣は、経済復興を最優先課題としながらも、アメリカの強い要求におされて、自衛力の漸増につとめ、警察予備隊を保安隊に改組した。千九百五十四(昭和二十九)年には、第5次吉田内閣がMSA協定(日米相互防衛援助協定)を結び、**それによって**アメリカから提供された装備で、自衛力の近代化をはかった。こうして、陸・海・空からなる自衛隊が創設され、防衛庁が新設された。(社会/高: 現代の日本史)

不自然さの理由は、(10)では「それによって」が「朝ごはんをよく噛む」とことと「脳の働きが活発になる」とことといった独立した事態を、(11)では「吉田内閣が協定を結んだ」とことと「自衛力の近代化をはかった」とことといった独立した事態同士を連結しているからである。それに対して、先の「そして」の例では、順に「調査」による「発表」、「実践」「理解」による「検討」、「置き方」による「方向指示」といった「方策」と「目的」がひとまとまりの事態を構成していることに注目されたい。

以上、ここでは「そして」が「方策」と「目的」をひとまとまりとしてまとめて上げる機能を確認した。

4 達成目標と方策によるひとまとまり

ここでは先行研究で指摘される「そして」の「同時性」のもう一つの類型を考察する。3節では「そして」の前後が「方策」と「目的」の順であったのに対して、ここではその逆の例を考察する。

次の「そして」は「そのため（に（は））」に言い換えられる。

(12) 日本国憲法は明治憲法と異なり、民主政治の原理に忠実な内容をもっている。第一の原則は、基本的人権の尊重である。それは「法律の範囲内」で認められた「臣民の権利」とは異なり、「侵すことのできない永久の権利」として、立法をはじめ、国政において最大限尊重されるべきものとされた。**そして**、それを維持するために継続的な努力の必要性が力説されている。（社会 / 高：現代社会）

(13) また、発展途上国において環境破壊を起こさずに開発を進める方法を、発展途上国との対話を深めながら見だし、大国や先進工業国も自国の利益だけを重視するのではなく、地球環境という地球社会全体の利益を重視しながら、環境保全に取り組む必要がある。**そして**この取り組みを、市民一人ひとりの実践によって支えなければならない。（社会 / 高：政治・経済）

(14) 彼（＝モンテーニュ）は、こうした悲慘さが生じる原因は、自己反省の欠如から生まれる偏見、独断、傲慢、不寛容などにあると考え、人間として望ましいあり方は、「われ何を知るか（ク・セ・ジュ？）」をモットーに懐疑の精神をつらぬき、生きた経験からたえず学び、謙虚な自己吟味をおこたらないことであるとした。**そして**ソクラテスの無知の知、対話の精神に大いに学ぶべきであると説いた。（社会 / 高：倫理）

「そして」の前後は順に（12）では「基本的人権は最大限尊重されるべきだ。そのためには継続的な努力が必要だ」、（13）では「環境保全に取り組む必要がある。そのためには市民各自が実践によって支えなければならない」、（14）では「懐疑の精神を持ち謙虚な自己吟味を実践すべきである。そのためにはソクラテ

スの精神を学ぶべきである」といった関係にある。すなわち、「達成目標」とその「方策」の関係にある。

しかし、この「そして」は「そのため (には)」とは以下の点で異なる。

次の例の「そのため (には)」を「そして」に言い換えたものは「そのため (には)」で意図しようとする達成目標が表せない。

(15) 心の健康問題へのとりくみでは、なにより、働く人自身が自分の心と体の状態に気づき、それに対処する必要性を認識することがたいせつです。**そのため**、ストレスへの気づきの援助や、心身の緊張をときほぐすリラクセーションの指導などの、心の健康づくりのための措置（メンタルヘルスケア）が重視されています。（保健体育 / 高：現代保健体育）

(16) 図 2-A は、塗装作業中に有機溶剤中毒になって入院した職業病の例です。こうした職業病を防ぐには、排気装置を設けるなど作業環境を改善したり、防毒マスクをつけるなど作業条件を改善することが必要です（図 2-B）。**そのため**職場では、衛生管理者などの専門スタッフが置かれ、定期的に作業環境を測定したり、適正な作業のしかたを示す作業基準を設けるなど、職業病を防ぐためのとりくみが、法律にもとづいて展開されています。（保健体育 / 高：現代保健体育）

先の例は順に (12) では「継続的な努力によって基本的人権は最大限尊重されるべきだ」、(13) では「市民各自が実践によって環境保全に取り組む必要がある」、(14) では「ソクラテスの精神を学ぶことによって懐疑の精神を持ち謙虚な自己吟味を实践すべきである」と言い換えられる。これはすなわち、二文で述べられたことが一文に帰することができ、「そして」がひとまとまりの事態を連結していることを示している。それに対して (15) では「心の健康問題への取り組み」では「心と身体についての認識が必要である」のは「働く人自身」にとってであり、そのための「メンタルヘルスケア」を行うのは「専門スタッフ」であり、「達成目標」と「方策」はそれぞれ独立している。同様に、(16) では「一般」に「こうした職業病の防止策は作業環境の改善、作業条件の改善が必要で」、そのため「職場」では「専門スタッフの配置などの職業病を防ぐための取り組みがなされている」というように達成目標と方策はそれぞれ独立した事態である。すなわ

ちこれらの例では「そのため」が互いに独立した事態同士を「達成目標」と「方策」という関係で連結しているのである。

以上、ここでは「そして」が達成目標と方策をひとまとまりとしてまとめ上げる機能を確認した。

5 一般的前提と帰結によるひとまとまり

ここでは先行研究で指摘される「そして」の「同時性」に対応するもう一つの類型を考察する。

次の「そして」は「したがって」に言い換えられる。

- (17) 第一次世界大戦後には国際社会をより組織化することによる安全保障が重視されるようになった。国際機構の創設による集団安全保障の体制がそれである。集団安全保障の下では、戦争は一般に違法とされる。**そして**、集団安全保障に参加している国家の中で、軍事的侵略を行う国家があらわれたとき、他のすべての参加国は、この侵略を自らに対する脅威とみなし、侵略国に対して共同して制裁を加える。(社会 / 高 : 政治・経済)
- (18) イギリスは連合王国といって、イングランド、スコットランド、ウェールズ、北アイルランドの4つの地域が連合して成り立っています。このことは、ユニオンジャックとよばれている国旗を見るとよくわかります。そのため、発祥の地であり、伝統のあるサッカーやラグビーのワールドカップなどの大会には、それぞれの地域が、別々に参加します。**そして**、選手や応援団は、たがいにライバルになります。(社会 / 中 / 2 : 新しい社会 地理)
- (19) 連立政権の時代千九百九十三年、政治改革問題で自民党は分裂し、総選挙をへて、「非自民」連立政権として細川政権が成立した。これによって日本の政党政治は、一党優位制から多党制、単独政権から連立政権へとその姿を変えていった。現在の二院制では、一つの政党が両議院で多数を占めることは難しくなっている。**そして**新しい選挙制度の下で政党の姿は目まぐるしく変わり、政界再編の名の下に政党の離合集散が続いた。(社会 / 高 : 政治・経済)

「そして」の前後は、順に(17)では「一般に戦争は違法とされる。したがって

参加国は侵略国に対して共同で制裁を加える」、(18)では「連合王国ではワールドカップではそれぞれの地域が別々に参加する。したがって、その国の選手や応援団はライバルになる」、(19)では「一つの政党が両議院で多数を占めることが難しい。したがって、政界再編による政党の離合集散が続いた」といった関係にある。すなわち、「前提」とその「帰結」の関係にある。

しかし、この「そして」は「したがって」とは以下の点で異なる。

まず、次の例の「したがって」を「そして」に言い換えると落ち着きが悪い。
(20) また、平民主義といえば、平民と貴族を対立させ、貴族を敵に、平民を味方にする意味に誤解されるおそれがある。民衆主義という言葉にはそうした欠点はないけれど、民衆を重んずるという意味があらわれない。憲政の根底にあるのは、一般民衆を重んじ、貴賤上下の区別をせず、しかも国体の君主制か共和制かを問わないことである。したがって、民本主義という用語が一番適当であるかと思う。(社会/中/2:新しい社会 歴史)

この例は「一般民衆を重んじ、貴賤の上下を問わず、国体を問わない憲政を命名するのに平民主義や民衆主義は適当ではない。したがって民本主義が適当である」といった論理構造を持つ。この「したがって」の前提は一般的なものではなく、したがってその帰結は筆者のものであるという個人的な論理となっている。

それに対して、先の例は(17)では「集団的安全保障の精神」や(18)では「連合王国の成り立ち」や(19)では「二院制という制度」といった一般的原則や理念が前提とされ、「そして」の後には当然の帰結が来る。すなわち先の例はこの例に比べると論理的関係がより強固であり、ひとまとまり性が強いと言える。

以上、ここでは「そして」が一般的原則による前提と当然の帰結をひとまとまりとしてまとめ上げる機能を確認した。

6 一組、一対

ここでは先行研究で指摘される「そして」の「継起性」や「同時性」とは性質を異にした類型を考察する。すなわち時間概念とは本来無関係の類型である。

(21) 千八百八十六年(明治十九年)のことです。和歌山県沖の海で、イギリス

の商船ノルマントン号がちんぼつしました。このときイギリス人の船員は、全員ボートでのがれて助かりましたが、日本人の乗客は、全員がおぼれて死にました。**そして**、イギリス人の船長は、イギリスの裁判で、軽いばつを受けただけでした。（社会 / 小 / 6 : 新しい社会 地理）

- (22) 町人出身の伊藤仁斎は、このような朱子学の考え方では、外面をきちんととりつくろうことはできても、内面の誠意や愛は欠如し、人と人との理想的な和合である仁は実現できないと批判した。**そして**彼は、誠こそが道德の根本でなければならないと説き、それを「真実無偽」、すなわち「わたくし」のない心情の純粹さと理解した。（社会 / 高 : 倫理）

- (23) 冬になると、あたりは一面の銀世界。湖はこおり、鳥たちはえさの魚がとれなくなります。ある鳥が言いました。「あたたかい所をさがして旅に出よう。**そして**、春になったら、またここへもどってくるんだ。」（国語 / 小 / 3 : 国語 三下 あおぞら）

(21) では「日本人乗客が溺死した」ことと「イギリス人船長が軽い刑罰を受けた」ことの時間関係は前者が先行するだろうが、この「そして」はそれを示すためのものではない。もちろん過程と結果の関係ではない。むしろ、「日本人乗客の悲惨さ」と「イギリス人船長の量刑の軽さ」を対比させていると考えた方がよさそうである。(22) では「伊藤仁斎が朱子学を批判した」ことと「道德の根本は誠であるとし、それを真実無偽だと理解した」ことの時間関係は同時であろうが、時間概念は捨象され、「朱子学への批判」と「誠の重視」が仁斎の一对の精神であることを述べているに過ぎない。また、(23) では「冬に旅に出る」ことと「春に戻ってくる」ことの時間関係は継起的な解釈ができるが、それを示すための「そして」ではなく、「往来」が一組、あるいは一对となっていると解釈する方がよさそうである。

以上、ここでは「そして」が一組、一对の事態をひとまとまりとしてまとめ上げる機能を確認した。

7 まとめにかえて

接続詞「そして」については、先行研究でひとまとまりとして前後の内容を連結すると指摘されているが、どのような内容であればひとまとまりとして連結できるのかということについては網羅的に記述されていなかった。そういう意味で本稿は「そして」のひとまとまりとしての添加を類型化したものと言える。

その類型を「そして」による添加としてまとめると次のようである。

(24) 「そして」による添加の類型

ひとまとまりの事態として：

- A) 過程に対して結果を添加
- B) 方策に対して目的を添加
- C) 達成目標に対して方策を添加
- D) 一般的な前提に対して当然の帰結を添加
- E) 一組、一対となる事態を添加

これまでの研究では時間関係や因果関係が「そして」の分類の基準であり、それによって石黒（2000）などのように並列、因果関係、時間の三つのカテゴリーにまたがるとされてきた。しかしながら、ひとまとまりの事態を描くのに二文以上で表現するという条件のもとでは、順当に（24A）および（24B）では事態生起の順となり、（24D）では推論の順となる。言語の線索性から同時に表現できない以上、（24B）の逆順となる（24C）すなわち「目的」が「方策」に先行する順も可能である。（24E）の「一組、一対」となる事態では主な事態がそれより劣る事態に先行するのが普通である。

また、石黒（2000：33）には「そして」の「決定的」という機能を持つという興味深い指摘がある。例えば（25）の例である。

(25) やがてやつらはわれわれの身体のうえにガソリンを浴びせかけ、藁や乾草

や荷車の横木や梯子などを積み重ねました。**そして**火を放ちました。

これはまさに前文を過程と見なし、後文で結果を表しているからこそ「決定的」という解釈（すなわち（24A））になるのだと考えられる⁴。

時間関係の観点からは、（24A）と（24B）では継起的な解釈が生まれる（そこに因果関係があれば因果の解釈が生まれる）。また、時間順に並べられた一組・

一対の（24E）でも継起的な解釈が生じうる。このような特殊な場合を除くと、（24C）および（24D）そしてほとんどの（24E）では同時性の解釈が生まれるのは当然である。

なお、次のような日本語教科書に表れそうな「そして」は（24E）の一組となる事態の添加と考えられる。

（26）空はよく晴れていた。**そして**、涼しい風が吹いていた。（市川 1978 の「累加」の例）

また、次は森山（2006）で『そして』は全体として一つの状況を構成するという点での「同類性」と、その中でもう一つの情報を添加するという『異項目情報の添加』の例として挙げられているものである。

（27）顔に水滴があたった。**{そして／*それから}** それはまぎれもなく雨だった。⁵

これは二文一対でひとまとまりの事態であることから、（24E）の一組・一対となる事態の添加である。また、同様に「同類異項目」の接続詞である「それから」は継起性の指定があるが、「そして」には継起性の指定がないとしている⁶。本稿の立場からこのことを考えると、もともと「そして」はひとまとまりの事態として添加する接続詞であり、特に（24A）（24B）の場合において継起的な時間関係となると考えられる。

また、つぎのような名詞の並列で用いられる「そして」は（24E）の一組・一対となる事態の添加の用法が物事にも拡張され使われるようになったものと考えられる⁷。

（28）国際連合は、国際平和と安全の維持、経済、社会、文化、**そして**人道などの面で、国際協調の促進と国際問題の解決を目的とする。（社会 / 高：政治・経済）

最後に、日本語教育において接続詞「そして」の導入の困難さについては石黒（2000）、阪上（2014）をはじめとしてしばしば指摘されるところである。本稿が明らかにしたことから、「そして」はひとまとまりの事態として捉えた事態の添加にのみ用いられるという特質を持つということがその原因の一つであると考えられる。学習者が単なる添加として使用した不自然な「そして」はこの特質から

ある程度説明ができるだろう。もう一つは中田 (2023) で実証的に検証したように、事態の述べ方には「視点の一貫性」(久野 1978) に従わなければならないという日本語の特質である。英語やスペイン語などでは次のような受け答えが可能である。

(29) a. “How are you?” “Fine, thank you. **And** you?”

b. «¿Como estas?» «Estoy bien, gracias. **¿Y** tú?»

しかしながら、日本語の「そして」ではそういう問い方ができず、それは「視点の一貫性」によるものだと考えられる。

「そして」だけに関わらず、日本語の接続詞の使用の困難さは他の品詞から転用したものが多いことに起因する。接続助詞に由来するもの (例えば「けれども、ところが、だから、すると」など)、指示詞を含む表現に由来するもの (例えば「それで、それに、それから」など)、動詞に由来するもの (例えば「したがって、つまり」など)、「名詞+助詞」の形のもの (例えば「ゆえに、ちなみに」など) などがある (益岡・田窪 1992)。そして、「そして」は「そうして」つまり指示詞を含む表現に由来し、同時に動詞に由来する接続詞である。そう考えると、元々接続詞である英語の ‘and’ やスペイン語の ‘y’ などとは大きく異なる現象を呈するのは当然である。

以上のように日本語の接続詞が持つ複雑さや制約は未だ解明しきっていないと言える。

註

- 1 比毛 (1989:54-57) は「同一主体の継起的な動作についてかたるばあいがあるが、もっともおおい」「まえの文とあとの文によってさしだされた、それぞれの動作は全体で同一主体の行動をえがきだしている」とし、そこに挙げられているのは次の3つの類型である。

「①主体の身ぶりやふるまいの動的な動作のくみあわせであったり、②主体の、ある目的地への移動とそこでの動作のくみあわせであったりするばあいがおおい」とする。「現実の世界の出来事はひとつの行動でありながら、文の構文-意味的な混乱をさけるために、それをふたつの文にわけて表現しなければならなくなることがある。こうして形式的に

は分離された文を内容的にふたたびまとめあげて、それをひとまとまりの行動としてさしだすためには、接続詞の「そして」をもちいてむすびつけることが必要になってくる」（p. 54）（傍点は筆者による。）としている。①②の例としてそれぞれ（ア）（イ）が挙げられている。

ア）おんなの子はだまった。そして、目をつぶって、ねむるまねをした。

イ）サブはナポレオンさんについて、ベンチのしたにもぐりこみました。そして、パンのかけらとサンマの骨をごちそうになりました。

これらは本稿の（24A）「過程に対して結果を添加」に対応し、さらにそこには③「主体のふたつの側面や特徴のくみあわせ」として（ウ）例も挙げられている。

ウ）まもなく、その、婆さんと言われた芸者が入ってきた。四十以上の、やせて小柄な、すこし青い顔をした、いかにも酒の強そうな女だった。そして、よくしゃべる女だった。

このタイプは本稿の（24E）「一組、一対となる事態を添加」に対応する。

- 2 BCCWJ から抽出した例文にそのジャンルと書名を典拠として挙げる。
- 3 この「過程」に対する「結果」は石黒（2000）の軽い因果関係を表す「結果の『そして』」とは異なるものである。さらにそこでは「そして」が並列、因果関係、時間の3つのカテゴリーにまたがるという指摘にとどまり、「そして」が持つひとまとまり性からどのようにそれらのカテゴリーに広がっていくかということについては述べられていない。
- 4 中田（2023）は、I-JAS のストーリーライティングのデータを用いてスペイン語母語の日本語学習者の「そして」の使用を分析し、スペイン語の接続詞 ‘y’ と対照した論文である。そこでは「そして」は事態の継起的な添加だけではなく、日本語には「視点の一貫性」があることによって場面の継起的な添加ができることを述べている。このことはある意味、石黒（2000）の「決定的」という機能、あるいは「結局」のそして」に通ずるところがある。「場面の継起的な添加」とは物語の語りで最後の場面を描く段に用いられる「そして」による添加のことであるが、本稿なりの言い方をすると、「そして」の前の談話が最後の場面の過程として解釈され、その後に物語の結果が語られるということになる。
- 5 森山（2006）ではこの例の指示詞「それ」の必要性が言及されているが、「そして」が連結する事態がひとまとまりであることを考えると、その「結束性」を明示するために指示詞が後文で現れることは自然である。今回使用したデータでも「指示詞」「同一主体」「全体-部分」などによって結束性を表す例が多く見られた。
- 6 楊・馬場（2004）でも同様の指摘がなされ、「それから」は「順次性」を強調し、「そして」は「順次性」を強調しないとしている。
- 7 梅林（2002:91）では「従来日本語の表現にはなかったもので、外国文学の移入により、いわゆる翻訳調が生まれたものと考えられる」としている。

参考文献

- 石黒圭 (2000) 「「そして」を初級で導入すべきか」『言語文化』37, 一橋大学
- 市川孝 (1978) 『国語教育のための文章論概説』教育出版
- 梅林博人 (2002) 「明治期の接続詞『そして』について—翻訳児童文学作品を資料として—」『日本語研究』22, 東京都立大学
- 久野暉 (1978) 『談話の文法』大修館書店
- 阪上彩子 (2014) 「話し言葉における「そして」の指導法: 話し言葉コーパスと初級教科書の分析を通して」『神戸大学留学生センター紀要』20
- 中田一志 (2023) 「日本語の「そして」とスペイン語の‘y’をめぐって」『日本語・日本文化』50, 大阪大学
- 馬場俊臣 (2017) 「教科書の接続詞—BCCWJ 教科書データを用いた分析—」『札幌国語研究』22, 北海道教育大学
- 比毛博 (1989) 「接続詞の記述的な研究」『ことばの科学』2, むぎ書房
- 前川喜久雄 (監修) 山崎誠 (編) (2014) 『講座日本語コーパス2 書き言葉コーパス—設計と構築—』朝倉書店
- 益岡隆志, 田窪行則 (1992) 『基礎日本語文法—改訂版—』くろしお出版
- 守屋三千代 (2000) 「添加型の接続詞について」『日本語日本文学』10, 創価大学
- 森山卓郎 (2006) 「「添加」「累加」の接続詞の機能—「そして」「それから」などをめぐって—」益岡隆志・野田尚史・森山卓郎編『日本語文法の新地平3 複文・談話編』くろしお出版
- 楊曉輝, 馬場俊臣 (2004) 接続詞「「そして、それから、それに、そのうえ」の用法」『北海道教育大学紀要. 人文科学・社会科学編』54-2

資料

- 国立国語研究所 (2024) 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(バージョン 2021.03、中納言バージョン 2.7.2) <https://clrd.ninjal.ac.jp/bccwj/> (2024年12月6日確認)

付記: 本研究は科研費 24K03979 の助成を受けたものです。

キーワード: 「そして」、添加の接続詞、ひとまとまり性、類型

A Classification of the Japanese Additive Conjunction '*Soshite*'

NAKATA Hitoshi

This paper discusses the classification of the Japanese additive conjunction '*soshite*'. Previous studies have generally categorized its usage based on the relationship between the preceding and subsequent sentences, identifying sequential addition, causal addition, and parallel addition as typical usages. However, this paper examines how certain situations are perceived as a unified whole and classifies all variations of '*soshite*' additions into five distinct types:

- (A) Adding a result to a process,
- (B) Adding a purpose to a method,
- (C) Adding a measure to an achievement goal,
- (D) Adding a natural consequence to a general premise,
- (E) Adding situations that form a set or pair.

This classification provides a comprehensive framework for understanding the diverse functions of '*soshite*' in Japanese.